

会報 安曇野教育

第60号

発行所 安曇野市教育会
 発行人 細 萱 稔
 編集 会報委員会

発行日 平成30年9月15日
 題字 川田 殖

先日、現場を離れた先輩の先生と話した時、彼は「強い心の生徒を育成しなければ学校はなくなる」と言った。確かに、これだけ教育を取り巻く数多くの問題がひしめく世の中にあつて、また、生徒指導上で留意しなければならぬ事項が山積している世の中にあつて、子どもたちにとっては、大人の世界に流されたり、引きずられたりしながら、数多くの誘惑や危険から自分の身を守る術を身につけていかなければならぬのである。

「強い心」とは、常に「誠

強い心の生徒と教師がいる学校

常任委員長
古幡 栄一



実で思いやりのある行いのできる心」のことであろう。そんな「強い心」を身につけるには、私は「ことに打ち込む」ことが大切になると思つている。「ことに打ち込む」ことが、それを取り巻く様々な状況やその人の境遇から人間的価値観を磨き、人間的な成長につながる

「強い心の生徒を育成しなければ学校はなくなる」……これを、「強い心の教師がいなくなれば学校はなくなる」と言い換えてもいいのかもしれない。未来を担うのは、子どもたちだけではない。もちろん、私たち教師もだと思つてお互いが強くありたい。

ることを期待できる。我が故郷の偉人、荻原礫山は、彫刻に打ち込むことで、苦悩に満ちた生命を表出する力強さを表現しようとしていたのだろう。今年度、安曇野市教育会は百三十周年の歴史を刻んだ。百二十周年を記念してブロンズ化された「女」。また、今年ブロンズ化された「女」と「女の胴」。それらの像から、私たちは何を感じ取つて、その像の中にある魂を後世に受け継いでいくべきなのだろうか。

「誠実」「思いやり」「強さ」、そして「命」

さて、中学校ならば、あと十年すれば、また小学校ならば、あと二十年すれば、教えた子どもたちが教師となつて将来の子どもたちの前に立つ。それは、今の時代に生きる私たち教師が残していく財産でもあるだろう。

安曇野市教育会の先輩であり初代会長の岡村千馬先生の遺徳を偲ぶと共に、安曇野にゆかりのある諸先輩の生き方に学ぶことを目的に、「安曇野の先人等に学ぶ会」が六月十六日(土)に開かれた。午前には、役員が三郷中萱にある岡村千馬太先生のお墓をお参りし、午後には、松本市城山公園にある岡村先生の碑の前で碑前祭を行った。本教育会の先輩の方々と役員が参加し、松本市教育会長小林良高先生、東筑摩塩尻教育会長柳生高広先生も参列してくださった。

会場を南安曇教育文化会館に移し、約五十名が参加して、会館南庭の木村素衛先生と務台理作先生の碑に拝礼をした。その後、大会議室で学習会を行った。

安曇野の先人等に学ぶ会

ているよりも生命感にあふれる表現を目指したこと、また、最高傑作「女」は量感、動勢など彫刻として優れているだけでなく、辛い姿勢から上を向こうとする精神性的象徴が巧みとされていることなど、作品の見どころもあわせてお話しいただき、現在の我々へのご示唆をいただいた。後半は、木村素衛委員会委員長と哲学同好会幹事長にご協力いただき、木村素衛先生の遺された日記の読み合わせを行った。

安曇野の先人の生きざまや高い志に触れて自己を見つめる機会となり、意義深い一日だった。

事業推進連絡会



七月九日(月)教育文化会館に

て第一回事業推進連絡会が開催された。細萱稔会長（豊科東小）のあいさつの後、各学校代議員による協議が行われた。

まず、五月に開催された教育会総集会を振り返った。国立天文台天文情報センター准教授／普及室長の縣秀彦先生の講演会が好評だったこと、同好会を別日にしたことでコスト減につながったことなどの反省が出された。また、今回は南安曇教育会から数えて百三十周年の節目を迎えて行われたブロンズ像の除幕式の様子も報告された。後半は、安曇野巡検についての反省が出された。今年度は「水」というテーマで多くのことを学べて好評だったこと、実技講習会と統合していく方向を探ってみてはどうかなど、今後の在り方についても話題になった。

連絡会終了後には、避難訓練と清掃が行われた。避難訓練では、火事を想定した内容で避難の方法を、参加者が確認した。会館の清掃では、教職員組合執行部の先生方とともに、参加者全員で玄関や各部屋などの施設を隅々まで手を入れた。会館は築三十年になる。現在の美しさを保っていくことができるように、今後も感謝の気持ちをお忘れず、大切に使用していきたい。

目で見て、触れて

安曇野巡検行われる

六月三十日（土）、安曇野巡検

が行われた。今年度は、目で見て、触れて「郷土に伝わる願い 水を求めて」をテーマに、バスで世界かんがい施設遺産にもなった、拾ヶ堰の見学が行われた。講師は、拾ヶ堰土地改良区の青柳和義さんと穂高南小の千村裕一先生。総勢二十四名の多くの先生方の参加があった。

はじめに、拾ヶ堰の始まりでもある、島内の取り入れ口を訪れた。ここは、奈良井川から水を取り入れている、拾ヶ堰の始まりの場所である。ゲートには、管理室が置かれており、内部も見学することができた。管理室の役割や、奈良井川からの取水の理由について青柳さんから教えていただいた。

次に、梓川を渡り、モニユメント公園へ行った。ここには、梓川の下を拾ヶ堰が通る逆サイフォンがあるという。東から安曇野がある西へ水を流すために、大正八年に着工されたサイフォン工事。当時多くの人が携わり、管理者の鳥川村長、黒岩重義は短刀を忍ばせるほどの覚悟を持って工事に挑んだという。先人たちの努力や思

いを感じながら、四百メートルほどの橋を渡った。

そして、三郷にあるじてんしゃひろば近くの拾ヶ堰を見学した。ここは、景観がよく、春には常念岳や芝桜の美しい風景が見られる場所である。こんな場所にも、拾ヶ堰の大きな仕組みがあるという。一つは、勘左衛門堰と交わる地点であること。二つ目は、万水川との交差であること。洪水時に拾ヶ堰の水を放流できるよう、排水路（万水川）として工事が行われた場所だという。人々を水害から守るために工夫された場所だということを知った。

最後に、堀金小前の大曲と下堀のウォッチマンゲートを見学した。大曲では、標高が高いため、これ以上西に上がれず、拾ヶ堰が大きく北流していた。ウォッチマンゲートでは、水位をコントロールし、農業用水路との水を調整している装置を見た。この装置、無人無動力というので驚いた。そして、この先、拾ヶ堰は烏川と合流するのだという。

以上、半日の日程で拾ヶ

堰の始まりからたどってきた巡検であった。この巡検で訪れた場所は、普段何気なく通っていた場所ばかりであった。水が乏しかった安曇野に、暮らしをよくしようと様々な努力のもと作られた拾ヶ堰。現在では水害を防ぐためや農業利用がしやすいように、さらに整備され今の豊かな暮らしを成していることも知った。青柳さんは「拾ヶ堰からは、人物の思いやリーダー性、堰の維持の大変さなど、様々なことを学ぶことができる」と話されていた。

多くの学校では、拾ヶ堰について学ぶ機会がある。拾ヶ堰の学習の教材研究のために参加されていた先生方もいた。この巡検に参加し、生で見えて聞き、新たな知識が得られた方が多くいたのではないかと感じる。この拾ヶ堰の巡検を通して、先人たちの思いや現在の防災の仕組みなどを子どもたちに伝えていかなければならないと感じた。この巡検を企画・運営してくださった

巡検に参加する前、なぜ梓川より遠い奈良井川から取水するのか疑問でしたが、より安定した供給を求めた結果だということを知りました。また、水の乏しい地の暮らしのために生涯をかけて水に尽くした先人の存在や強い思いを感じる事ができました。さらには、その思いを受け継ぎ、現代でも新しい技術で私たちの暮らしを守ってくれているのだと、奈良井川のゲート管理室や、ウォッチマンゲートで知ることができました。

今回の巡検で、安曇野市の水は

社会科資料編集委員会の先生方にも、お礼を述べたい。

「安曇野巡検の感想」

（穂高南小）

「これは奈良井川、豊かに澄んで魚影うつす あれは梓川、瀬音厳しく岩をかむ」—私の母校の校歌の冒頭です。今回の安曇野巡検は幼い頃からよく知っている川を巡るものでした。しかし、その川の歴史や人々の努力については詳しく知らず、教員として、また地元の人間として知っておきたいと思い、参加させていただきました。

巡検に参加する前、なぜ梓川より遠い奈良井川から取水するのか疑問でしたが、より安定した供給を求めた結果だということを知りました。また、水の乏しい地の暮らしのために生涯をかけて水に尽くした先人の存在や強い思いを感じる事ができました。さらには、その思いを受け継ぎ、現代でも新しい技術で私たちの暮らしを守ってくれているのだと、奈良井川のゲート管理室や、ウォッチマンゲートで知ることができました。



実技講習会 各会の様子

長い歴史や深い意味をもち、大変貴重なものであるということを知りました。今後、子どもたちにも先人たちの努力やそれを維持する大変さを伝え、地域を大切にしようとする意識を育んでいき

実技講習会 開かれる

たいと思います。

実技講習会が、七月二十七日（哲学は三十日、音楽は八月七日）に安曇野市内十八会場で開かれ、多くの先生方が熱心に学ばれた。実技講習会はその教科・分野を得意とされる講師をお招きし、講義や体験等を通して学ぶ会である。教員自身の専門教科の実技講習に限らず、興味関心のある講座を選択し受講できることから、各講座には校種・教科を越えて先生方が集まり、専門性を磨くだけでなく、交流の場としても良い機会となった。

▽講師 関川 誠 先生
（あづみ野FMパーソナリティ）
▼参加者数 二十六名
長野市でセミプロの劇団に所

属していた経歴を持つ関川先生を講師にお招きし、演劇や話し方・聞き方について学びました。

午前中の講義では「何かを伝えたり表現したりする時は、自分の体がどうやって動くのかを知ることが大事」ということを、実演を通して学びました。

午後の演習では、発声練習や腹式呼吸の練習方法を体験しました。また、参加者の質問に積極的に答えていただきました。「大勢の前で上手く話せない生徒」について質問が出ると、「特定のターゲットに向けて話す」「原稿を話し言葉に直す」と、話のプロだからできる貴重なアドバイスをいただきました。講習後「教育に携わっていない方の話は、専門的でとても新鮮でよかった」などの感想が寄せられました。

（明南小）

社会

▽講師 高野貴史 先生
齊藤雄太 先生
（安曇野市役所 環境課）
▼参加者数 三十六名
講師に安曇野市役所環境課の方をお迎えして、「安曇野水紀行」地下水が結ぶ人々の営み」と題

し、研修を行いました。

はじめに、教育文化会館で安曇野市の地下水の現状についての講義を拝聴した後、ゴールドバックあづみ野工場で、環境保全の取り組みの様子や地下水が工場で使用されている様子を見学しました。

午後は、大王わさび農場・長野県水産試験場へ行き、湧水が安曇野ならではの農業・漁業に活用されている様子を確かめてきました。あわせて、湧水の清らかな流れに安曇野の美しさを改めて感じることができました。

地下水をテーマに、安曇野の産業の特徴を捉え直すことができ、教材開発のきっかけとなる一日となりました。

（豊科南小）



算数・数学

▽講師 茅野公穂 先生
（信州大学教育学部教授）
▼参加者数 二十名

今年度も茅野公穂先生をお迎えし「数学的に考える資質・能力を伸ばす授業作り」についてご講演をいただきました。主眼、活動ともに「形」だけにならないよう、どのように評価するのか、子どもたちにとって必要性があるのかを意識しながら、授業作りをしていかなければならないと、改めて振り返る機会となりました。

講演会後、参加者の先生方に授業実践や悩みを持ち寄っていただき、発表と意見交換をしました。

小中学校の先生方が一緒に授業について語る機会であったので、実践例を元に小中のつながりを生かした授業作りについて議論しました。多くの意見やアイデアが出され、夏休み明けには、早速授業に生かされるのではないかと思います。

（穂高西中）

理科

▽講師 栗林 聡先生（大町西小）
▼参加者数 二十二名
午前中は「酸・アルカリによる色素の色の変化」、午後は「液体室素を使った実験」をテーマに、

実際に授業で活用でき、子どもが興味関心をもって取り組める実験を紹介していただきました。

酸・アルカリというと、専門的な知識理解が難しく、苦手意識をもってしまいがちですが、講習会では、自分で調達した花から色素を抽出し、レモン果汁や重曹水を加えることでさまざまな色に変化する様子がとても面白く、夢中になって取り組める実験でした。

午後の液体室素を使った実験では、非日常を体験する不思議な現象がたくさんありました。おなじみのバナナで釘を打ったり、花を凍らせた後、実験や液体の酸素が線香を激しく燃やす現象など、大変興味深く、是非とも授業で実践してみたいと思える内容でした。

（豊科南中）



音楽

▽講師 蓮沼勇一 先生

(暁星小学校元教諭)

▼参加者数 二十五名

今年度も、昨年度に引き続き、蓮沼先生をお迎えして、合唱指導について学びました。

午前中は、三郷中学校の合唱部をモデルに、響きのある発声の方法や曲の作り方、表現の仕方などの指導法について学ばせていただきました。

午後は、参加者が、実際に合唱曲を歌い合わせながら蓮沼先生に発声方法や表現の仕方、指揮の振り方などを教えていただきました。曲作りや発声の仕組みなど、わかりやすく丁寧に教えていただき、実際に声や歌い方が変わる感覚を実感することができました。合唱指導の素晴らしさもさることながら、先生の温かいお人柄や、ユーモアのあるお話に引き込まれ、時のたつのを忘れて楽しむことのできた貴重な時間となりました。

(穂高北小)

図工・美術

▽講師 嶋田好貴 先生

(穂高陶芸会館)

▼参加者数 二十七名

本年度「図工・美術」講座と改

称し気持ちも新たにしつつ、例年と同様に穂高陶芸会館を会場に、「陶芸日和」の講座を開催しました。蟬が鳴き緑あふれ、蚊取り線香の香りが漂う中、思い思いの作品を制作することができました。

はじめに嶋田先生にカップの作り方を手びねりで師範していただいた後、それぞれの作陶に入っていました。恐る恐る粘土に触れ周りを見ながら制作する方もいましたが、アドバイスをいただいたり具体的な作品像を決めだしたりすることに、皆さんが陶芸の世界に浸り込み、土と対話しながら個性的な作品を作り上げることができました。陶芸会館で素焼き・釉がけ・本焼きと仕上げているいただき約一ヶ月後に仕上がる作品が楽しみです。

(三郷小)

保健体育

▽講師 小森康弘 先生(豊科南小)

永池祥樹 先生(豊科北中)

養輪良江 先生

(松本市立寿小)

▼参加者数 二十三名

午前中の講習では小森先生より新学習指導要領における体づくり運動の内容の主な改訂点を踏まえ、「体ほぐしの運動」について、低学年の運動遊び、陸上運動の走・跳・投につながる基本的な運

動を伝達していただいた。また、永池先生からは、ネット型種目の単元の進め方や柔道の導入段階での所作・技能、受身、事故防止に関することなどを伝達していただいた。

午後は養輪先生より、「コーデイネーショントレーニングを活かした授業づくり」というテーマに、思い通りに身体を動かすにはどうしたらよいかを講義と実践を交えて指導していただいた。随所に「楽しく動いて運動能力を高めていく」要素があり、授業のみに留まらず学級経営にもつながる内容であった。午前午後ともに授業改善、そして授業者の健康増進につながる大変有意義な講習であった。

(三郷中)



技術

▽講師 小林健男 先生

(有限会社 コバヤシ造形堂)

▼参加者数 十二名

講師に小林先生をお迎えし、株式会社アーテックから林さんをお招きして、午前は、歩行者用信号機をモデルとしてブロックを組み立て、プログラムを作りました。

午後は、計測と制御キットを使い、自動ブレーキシステムや速度自動調整システムなどの現代社会の技術をプログラムで表しました。最後に行ったライントレースカーの製作では、様々なプログラムの試行錯誤を行い、実際にコースを走らせて正解を導く姿が見られました。プログラミングについては、小学校では再来年必修化、中学校では範囲が拡大となる中、多くを学ぶことができました。

(三郷中)

家庭

▽講師 瀬田金行 先生

(ビストロ瀬田亭オーナー)

▼参加者数 十八名

午前は、旬の野菜を使って調理をしました。講師の瀬田先生から日仏融合料理として、日本の発酵食品である醤油や味噌を使ったソースの作り方を教えていただきました。身近な食材で作ることができ、調理実習でも実践できるものとして勉強になりました。

午後は、あづみの住宅公園へ行

き、環境と住まいをテーマに、私たちが住まいの中で工夫していく点について考えました。また、最近の住宅の特徴を教えてくださいました。

講師の先生方に積極的に質問をしたり、先生方どうして情報交換をしたらと、充実した一日になりました。

(豊科北中)

道徳

▽講師 田野口弘 先生

(松本大学基礎教育センター)

▼参加者数 十名

「児童生徒が楽しみにする道徳の授業づくり」をテーマに、田野口先生より講義・演習をしていただきました。

午前の講義では、資料「小さいこと」を用いて模擬授業をしていただく中で「考え議論する道徳」の実際を教えてくださいました。

続いて、参加された先生方の事例や評価の実際などについて発表し合い、先生から評価の基本についてのご指導をいただきました。

午後の演習では、グループに分かれて「父の言葉」という資料を用いて「中心発問」と「価値の自覚を深める発問」を検討し授業づくりを行いました。

少人数で真剣に意見交換ができた充実した講習会となりました。

哲学

(穂高東中)

▽講師 西村拓生 先生

(奈良女子大学文学部教授)

▽参加者数 五十五名

昨年度に引き続き、西村拓生先生を講師にお迎えして、哲学研修講座が行われた。

今年度も、木村素衛先生が執筆された「表現愛」をテキストにして読み合わせを行った。大変難解な文であったが、グループの先生方でテキストを順番に読み、「こういうことを述べているのではないか」と文章を考えることで、グループの先生方の見方・考え方を知らることができ、大変勉強になった。

西村先生からは、私たちの疑問に対してポイントやキーワードをしぼって丁寧に解説をしていただき、日常の教育活動につなげて理解を深めることができた。私たち教師が、子どもの表現をどのようにとらえるべきかを知り、これからもさらに教師観というものを考えていきたいと感じられた貴重な研修会となった。

(明科中)

人物誌

▽講師 原 明芳 先生

(豊科郷土博物館館長)

▽参加者 十三名

本年度は「日本が誇る映画監督熊井啓の青春 旧制中学時代」というタイトルで、原館長の講義、豊科郷土博物館の特別展「どうする葬式？どうなる葬式？」の展示見学をした後に、臨地研修に出ました。

まず、豊科交流センターきぼう内にある「熊井啓記念館」にて制作映画の資料を見学して、昼食は生家近くのレストラン「ハレルヤ」で会食。午後は今回のメインである「旧陸軍飛行場跡地」(松本市菅野)に臨検に行きました。そこは熊井啓監督が書き残した「続池塘春草の夢」の著書に、中学時代、動員として働いたということが記されており、現在の菅野小学校周辺には、当時の戦闘機の格納庫の壁跡が、ところどころ残っていました。十三、四歳の青年熊井啓が、ここでどんな思いで働き、その後の社会派と言われる映画監督になっていったのか、戦争の爪跡を見ながら、熊井映画の再考と戦争を語り継いでいかなければ、という思いにかられた研修になりました。

(豊科北小)

英語

▽講師 牛山真弓 先生

(長野県総合教育センター)

川上佳奈 先生

(松本市立田川小)

▽参加者数 十七名

午前は牛山先生から授業づくりのコツをご講義いただいてから、グループごとに一時間の授業案を考え、マイクロティーチングを行いました。小中混ざって行ったことで多くのことを学べました。

午後は中学校区ごとに小中連携について情報交換を行いました。特に中学校では小学校での学習活動や内容を知りやすい機会となりました。

その後、異文化理解ということ、海外青年協力隊員としてアフリカのブルキナファソに二年間赴任し、教育活動に携わった経験を、おもちの先生をお招きし、写真をおもちゃに見せていただきながら現地の生活の様子をお話しいただきました。開発途上国について知ることができ、英語学習の目的を改めて考えることができました。

(豊科南中)

学校保健

▽講師 赤羽悦子 先生

松居直子 先生

(天蚕振興会)

中山千代子 先生

(松本市立筑摩野中)

▽参加者数 三十五名

「心と体の癒やし」をテーマに、午前中は、天蚕コーサージュ作りと、実際に天蚕センターの展示品を見せていただきながら、安曇野市の天蚕についてお話をお聞きしました。初めて知ることも多く、地元の伝統を大切にしていきたいと感じました。

午後の講座では、自分の好きな香りを組み合わせ、世界に一つだけの香水とアロマオイルを作りました。

講師の方の素敵なおもてなしとアロマの香りに包まれ、心も体も癒やされた時間でした。不眠や花粉症などの症状に効く、アロマの効能についても学ぶことができました。

(豊科南小)

特別支援教育

▽講師 石川崇史 先生

山下俊輔 先生

(KTCおおぞら高等学院)

三枝由美 先生

本田洋介 先生

(ステップワーク穂高わたぼうし)

石曾根佳子 先生

(おおぞらnobi)

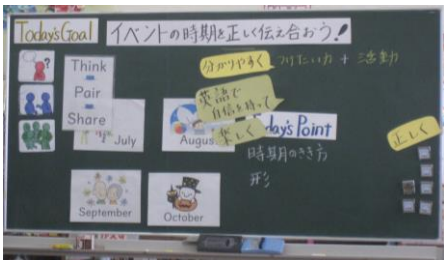
▽参加者 三十一名

「学歴はないけれど…」この夏一番の話題の人と言えば、「スーパーポラントイア」尾島春夫さん。山口県で行方不明になっていた二歳の男の子を発見して一躍ときの人になりました。

東西南北

が、皆が驚いたのはそれから。お礼は一切受け取らない。初めての地での寝泊まりも自分の軽ワゴン車の中。搜索に来る前は、西日本豪雨災害のボランティア活動に三週間従事、発見の三日後には広島県呉市に戻ってボランティア活動を再開。二〇一一年三月の東日本大震災では、がれきの中に埋もれた思い出の写真などを拾い集める「思い出探し隊」の隊長として活動。その後七年半、東北の仮設住宅が全て無くなるまではと、大好きなお酒を断って、ボランティア活動を続ける…等々。

「学歴も何もない自分がここまですべてこられたのは、全部社会の人たちに助けられたおかげ。だから残りの人生を社会に恩返ししたいと思った」(尾島さんの言葉)。



子どもたちに範を示すはずの大人社会が、その言葉とは裏腹に違背することばかりの昨今。人の徳は、学歴とは関係ないようです。

(穂高東中)

午前中は、通信制高校屋久島おぞら高等学校のサポート校であるKTCおぞら高等学院の学校説明をお聴きし、プログラムを体験しました。「人と人とのつながりを大切に」「やってみて自分の好きなこと、得意なことを広げていく」という考え方に学び、中学卒業後進路の選択肢の一つとして紹介していきたいと思いました。

午後は、放課後等デイサービスを行っている二つの施設を見学させていただき、施設の運営や支援に関するお話をお聴きしました。保護者の気持ちにも配慮して支援していくことの大切さを学びました。

(穂高西小)



情報教育

▽講師 室谷 心 先生

(松本大学教授)

セイコーエブソン(株)

榑市川ソフトラボラトリー

▽参加者数 二十六名

小学校でのプログラミング学習のスタートに向けて、今年もScratchというブロックプログラミングと、新しくMicro:bitというプログラミング教材を紹介していただき、実際にセンサーやBluetoothを利用したプログラムを組んで学習しました。

午後は最近普及の進んできた電子黒板の活用方法の紹介と、実際に使ってもらっしやる先生から発表をいただきました。また、デジタルピククスという画像処理ソフトで逆光補正や輪郭切り出し等の作業を体験しました。

(豊科北中)

教育相談

▽講師

浦野典子 先生

(CURE GARDEN 結家)

松田和子 先生(POTAKA 穂高)

望月浩佑 先生(Grand Riche)

靱山尚子 先生(ほたか野の花)

▽参加者数 二十四名

安曇野市内の子ども支援を行っている施設を訪問し、運営概要

や子どもたちの様子、支援者の願いなどをお聞きました。

共通して、子どもとの信頼関係の構築、そして、保護者の方への働きかけの大切さを語られていて、教育相談のポイントとまさしく同じであり、学びの多い一日となった。

(穂高東中)



生活・総合

▽講師

伊藤理恵子 先生(くるみ工房)

馬淵勝己 先生(三郷小教頭)

▽参加者数 二十一名

午前中は、フライパンを使ってのパン焼きに挑戦しました。和気あいあいと話しながら、楽しく美味しいパンができました。「フライパンでこんなに美味しいパンが焼けるなんてびっくり」身近にあるフライパンで焼けるので、学校でも家でも試してみたい」

と、参加者の先生方からも大好評でした。

午後は、三郷小の馬淵先生に「総合的な学習の時間」についてのお話をしていただいた後、お互いの実践について情報交換をしました。「馬淵先生からとても感動的な実践のお話をお伺いすることができて、明日からの取り組みに勇気をもらいました」という感想に代表されるように、とても有意義な時間となりました。

(穂高南小)

編集後記

本号では、実技講習会の様子が掲載されました。報告内容や写真を拝見すると、それぞれの講座で先生方が夢中になり楽しんで参加されている様子が伝わってきました。毎年、参加できる講座は一つですが、この報告を読むことで、他の講座の内容を知ることが出来ます。自分も参加したような気持ちになっただけなら、また来年はどの講座に参加しようかなと、選択の幅を広げていただければと思います。

郷土の文化財40

「郷土文化財センターの蔵書②」

郷土文化財センターの中に収蔵されている書籍を紹介するシリーズ第二回は、「史料開智学校」です。

開智学校は、日本最古の学校として、明治六年に創立してから昭和三十八年に閉校するまで、多くの子どもが学びました。特に校舎は、昭和三十六年に国の重要文化財に認定されています。

「史料開智学校」には、当時の学校日誌や授業の様子が載っています。日本の学校の始まりを知る貴重な史料です。手に取って、その歴史をたどってみてはいかがでしょうか。

(郷土文化財センター運営委員会)

